



依存関係レコード

この付録では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの、依存関係レコードのウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーリング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco Unified Communications Manager からレコードを削除する必要がある場合、依存関係レコードを使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- 「依存関係レコードの使用可能化」(P.A-1)
- 「依存関係レコードの使用不可能化」(P.A-2)
- 「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2)
- 「依存関係レコードのボタン」(P.A-4)

依存関係レコードの使用可能化

依存関係レコードにアクセスするには、まず依存関係レコードを使用可能にする必要があります。システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています。依存関係レコードを使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

依存関係レコード機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。
- ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[True] を選択します。

依存関係レコードを使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

- ステップ 4** [OK] をクリックします。
フィールドに [True] が表示されます。
- ステップ 5** [保存(Save)] をクリックします。

依存関係レコードの使用不可能化

依存関係レコードを使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、依存関係レコードを使用不可にすることができます（システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています）。依存関係レコードを使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [システム(System)] > [エンタープライズパラメータ(Enterprise Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。
- ステップ 3** [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[False] を選択します。
依存関係レコードに関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。
- ステップ 4** [OK] をクリックします。
フィールドに [False] が表示されます。
- ステップ 5** [保存(Save)] をクリックします。

依存関係レコードへのアクセス

Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウから依存関係レコードにアクセスするには、[関連リンク(Related Links)] ボックスから [依存関係レコード(Dependency Records)] を選択し、[移動(Go)] をクリックします。[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。



(注) 依存関係レコードが有効になっていない場合は、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます（レコードに関する情報は表示されません）。依存関係レコードを使用可能にするには、「[依存関係レコードの使用可能化](#)」(P.A-1) を参照してください。

たとえば、[デバイスプール設定(Device Pool Configuration)] ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、[依存関係レコード(Dependency Records)] リンクをクリックすると、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます（[図 A-1](#) を参照）。

図 A-1 [依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] の例

依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary) 関連リンク: [次に戻る: デバイスプール: Default](#) 移動

? ヘルプ

104 個のレコードが次を使用中: デバイスプール: Default

レコード数 (Record Count)	レコードタイプ (Record Type)
5	電話
1	会議ブリッジ
1	※ディアターミネーションポイント/トランスコーダ
1	保留音サーバ
2	トランク
1	アナシエータ
4	PhoneTemplate
89	デバイスのデフォルト

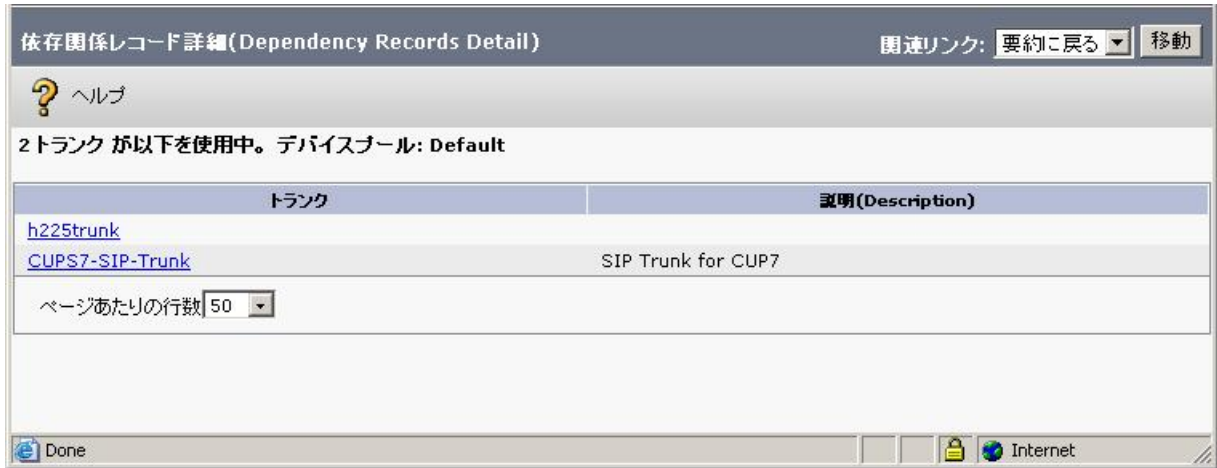
リフレッシュ 閉じる 閉じて戻る

i * - 必須項目を示しています。

Done Internet

依存関係レコードの詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします（たとえば、トランクレコードをクリックします）。[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウが表示されます（図 A-2 を参照）。元の設定ウィンドウに戻る場合は、[関連リンク (Related Links)] リストボックスから [要約に戻る (Back to Summary)] を選択して [移動 (Go)] をクリックします。その後、[次に戻る (Back to): <設定ウィンドウ名>] を選択して [移動 (Go)] をクリックするか、または [閉じて戻る (Close and go Back)] ボタンをクリックします。

図 A-2 [依存関係レコード詳細(Dependency Records Detail)] の例



[依存関係レコード詳細(Dependency Records Detail)] ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている [h225trunk](#) レコードをクリックすると、[トランクの設定(Trunk Configuration)] ウィンドウに、[h225trunk](#) に関する情報が表示されます。

依存関係レコードのボタン

[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- [リフレッシュ(Refresh)] : ウィンドウを現在の情報で更新します。
- [閉じる(Close)] : ウィンドウを閉じます。ただし、[依存関係レコード(Dependency Records)] リンクをクリックした Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウには戻りません。
- [閉じて戻る(Close and go Back)] : ウィンドウを閉じ、[依存関係レコード(Dependency Records)] リンクをクリックした Cisco Unified Communications Manager の設定ウィンドウに戻ります。